

令和4年度第1回宮崎県スポーツ推進審議会 議事録

I 日程等

- 1 日 時：令和4年7月7日（木）
- 2 会 場：県庁本館講堂
- 3 出席委員：春山委員、吉富委員、木下委員、金川委員、内村委員、富高委員、古川委員、和田委員、玉城委員、竹元委員、恵利委員、松田委員、鶴田委員、宮田委員、遠坂委員、西田委員（16名）

II 概要

1 副教育長あいさつ

令和4年度第1回宮崎県スポーツ推進審議会の開催にあたり、一言ごあいさつを申し上げます。

本日は、大変御多用な中、御出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃から、本県スポーツの推進につきまして、それぞれの分野で、多大な御理解と御協力をいただき、改めてお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症につきましては、今もなお予断を許さない状況ではありますが、私たちの生活は、これまでに得られた知見を基に、一人ひとりが基本的な感染防止対策を継続しながら、社会経済活動の回復に向けたステージへとシフトしております。

このような中、本県のスポーツイベントにつきましても、5月に開催されました「障がい者スポーツ大会」を皮切りに、「ねんりんピック大会」や「高校総体」、「県民総合スポーツ祭」等が開催されております。

また、2027年に本県で開催予定の第81回国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向け、関係団体と連携しながら、競技力向上はもとより、県民のライフステージに応じた多様なスポーツ活動や地域振興を図るなど、スポーツを生かした「未来のみやざき」づくりを推進しているところであります。

どのような社会状況においても、人々が健康で明るく豊かな生活を送るために、運動・スポーツは大変重要な役割を果たすものであります。

このため、県教育委員会では、本年度「する」、「みる」、「ささえる」スポーツを真に実現し、県民誰もがスポーツに親しむ社会づくりを目指した、本県の「次期スポーツ推進計画」の策定に取り組むことといたしました。

本日は、「本県のスポーツ推進の現状と課題及び次期スポーツ推進計画策定の方向性」をテーマに協議を行うこととしております。

委員の皆様方には、それぞれのお立場からお考えをお聞かせ願ひ、本県スポーツの推進に、お力添えいただきますようお願い申し上げます、開会のごあいさつといたします。

本日は、よろしくお願ひいたします。

2 辞令交付
各委員への辞令交付（感染防止の観点から事前に机上配付）

3 委員紹介
各委員より自己紹介

4 会長（議長）・副会長選出
自薦・他薦なし ⇒ 事務局案の提示 ⇒ 承認
会長：春山委員、副会長：古川委員

5 スポーツ推進審議会開催計画の説明
令和4年度の審議内容等の計画について、事務局より説明

6 補助金の説明
令和4年度スポーツ関係団体への補助金について、事務局より説明

7 質疑・応答

発言者	発言内容
議長	○ 事務局からの説明について、質問等がないか。
委員	○ 特になし

8 協議 テーマ：「本県のスポーツ推進の現状と課題及び次期スポーツ推進計画策定の方向性について」

(1) 協議 I

「現スポーツ推進計画に基づく本県スポーツ推進の現状と課題について」

発言者	発言内容
議長	○ 協議の前に、協議 I の視点について事務局からの説明をお願いします。
事務局	○ 配付資料を基に協議 I の視点を説明 ・スポーツ基本法第10条における本県の「地方スポーツ推進計画」の位置付けについて ・宮崎県教育振興基本計画「施策15 スポーツの振興（現宮崎県スポーツ推進計画：R1～R4）」の推進に関する各種統計資料について ・審議会におけるこれまでの協議等の経過について
議長	○ 事務局からの協議視点説明について、質問等はないか。（特になし） ○ 意見のある方は挙手にてお願いしたい。

委員	<p>○ 総合型クラブでは、2027年本県開催予定の国スポ・障スポに向けた準備に協力をしている。加えて、中学校運動部活動の地域移行についても、多くの質問や問合せをいただいている。</p> <p>○ 現状、総合型では、国スポに向けたジュニア育成、中学校部活動の地域移行について、十分な対応に至っていない。</p>
委員	<p>○ 観光の観点から「スポーツをいかした地域活性化」における「するスポーツ」について、本県の「スポーツツーリズムの現状」を報告させていただく。</p> <p>【ゴルフ】 コロナ禍において3密回避が容易であることもあり、全国的にゴルフ場利用者が増加している。本県では、コロナ当初に一時減少したものの、昨年度は約8%増、110万人の利用があり、県内ビジターが増加している。今後は、海外インバウンドの取込にも取り組んでいく。</p> <p>【サーフィン】 若い世代を中心にサーフィン関連の移住者が増えてきている。また、昨年度、一昨年度、教育旅行（修学旅行）で来県した学校は315校であったが、そのうち約半数の156校が青島でのアクティビティー体験を実施する等、利用者数の増加傾向が続いている。</p> <p>【サイクリング】 昨年度、県内5つのサイクリングコースを使ったモニタリングツアーに、様々なサイクリングレベルの14名に参加いただいた。感想として、景観がすばらしいとの評価、インフラ、食事の場所、宿泊施設数への課題をいただいた。</p>
委員	<p>○ コロナの影響により、スポーツはもとより、身体活動自体の実施が減少しているように感じる。特に高齢者において、これまで介護支援等を受けていない方々でも、10分も歩けなくなっているという事例も耳にしている。今後、要介護者が増加することを危惧している。こうしたことを未然に防いでいくために、スポーツが健康増進や共生社会に寄与するという視点は、ますます重要になると考える。</p>
委員	<p>○ コロナ禍における、心身へ影響は子供たちも同様に心配される状況にある。以前、子供の体づくりに関する委員を務めさせていただいたことがあるが、その頃と現在の子供の状況として、体力的な面だけでなく、感情の調整等も上手くできない傾向にあると感じる。「早寝・早起き・朝ご飯」「くうねる あそぶ」といった基本的なことができれば、自然</p>

委員	<p>とスポーツを楽しめる環境が整うと考えている。部屋の中に閉じこもった現状の生活では、お腹も空かないし、眠くもならない。保護者が部屋から連れ出してあげる勇气が必要である。こうした生活が思春期に登校できない子供を生み出す一因となっていると感じる。毎日、「出かけてみたら、動いてみたら」という行動が豊かな生活を形成していくために大切であると考え、日々の保育指導にあたっている。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本県におけるストリートスポーツの現状を「する」、「みる」「ささえる」に当てはめて考えてみると、「する」については、競技をする場所、施設が宮崎市内に限定されている。「みる」については、競技をする子供たちの多くは、YouTube等から技の習得をしている。「ささえる」については、県内にインストラクターがいないという現状である。 ○ 東京オリンピック前から競技人口は爆発的に増えている。宮崎市内のある施設だけでも利用者が約9,000人となっている。利用する子供たちに話を聞くと、運動が得意な子も、そうでない子も楽しいとの感想を述べてくれる。遊びとスポーツの中間として生み出された競技の特性が子供たちに評価されているのではないかと考える。 ○ コロナ禍において、子供たちの体力の二極化を感じる。楽しくスポーツができる環境づくり、受け皿づくりが必要と考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水泳でジュニアオリンピックに出場する子供たちの指導に携わっているが、他県（特に都市部）選手と本県選手との比較で、特に体の大きさが全然違うと感じる。各種全国規模の大会で結果を残すためには、ウェイトトレーニングが重要になると感じている。都市部の私立学校には、トレーニングジムが校内に整備されているが、本県で整備が難しい状況であるならば、地域のジムを利用できるようにする等、工夫が必要ではないかと考える。 ○ スポーツ参画人口の拡大では、何より体験が重要と考える。どんな競技や種目があるのかを知ることが第一歩となる。ユニフォームを着る、道具を触る等、体験の前段階となるような機会が増えてもよいのではないかと考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ チンドン屋としてイベント等をする1万5千歩ほど歩くが、周りの観衆も楽しさで同じように歩いてついてくる。また、自分の地域で伝統として紡がれている行事として、十五夜や六月灯といった祭りがあるが、そこでは相撲や綱引きが行われている。こうしたものも生涯スポーツという捉

委員	<p>えができるのではないか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 私が通う合気道の道場には、男女、多様な世代が参加しているが、最近では南アフリカの方も来場するようになった。日本の伝統文化に非常に興味を示している様子である。 ○ 大きな施設等がなくても、地域にはスポーツを楽しむための場や素材がたくさんあると思う。早朝より、散歩する地域住民もたくさん見かける。SALKOもいいきっかけを与えてくれている。日常の生活の中に、運動・スポーツをするためのきっかけは存在していることを意識できるとよいと思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校の懸案事項としては、部活動の地域移行が挙げられる。現場では、働き方改革が叫ばれる中、平日2時間、休日3時間といったガイドラインによる活動がようやく浸透してきたところである。 ○ 休日の部活動が地域移行された場合、平日に練習した成果を休日の試合で試すといったサイクルや、地域での指導者の確保等、先が見通せない課題も多くあると感じている。 ○ 体力向上の面からも不安がある。週3時間の体育の授業だけで成果を上げることは難しい。これまでも部活動で足りない部分を補ってきた状況である。地域移行がなされた場合、運動・スポーツをやる子、やらない子で二極化が進むのではないかと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 現行の県スポーツ推進計画では、健常者と障がい者がともにスポーツができる拠点作りを掲げて取り組んできた。国の第3期基本計画においてもスポーツを通じた共生社会の実現が謳われている。これをどう具現化するのが大切であり、「どのようにして」、「誰が（キーパーソンは誰か）」等、具体的に詰めて考えていかなければ、現状の健常者と障がい者のスポーツが個別のままで変わらない。 ○ 県障がい者スポーツ協会では、県障がい福祉課の委託を受けて、県内の各スポーツ競技団体とスポーツを通じた共生社会に係る事業に取り組むことになった。この事業をとおして、共生社会を目指したスポーツの在り方の道筋を見いだしていきたいと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々なレクリエーションに関わる中で、資格を持たない指導者による指導の場面をよく見かける。幼児から高齢者まで、一生涯を通じた活動を支える観点から、資格を持ち、学んだインストラクターによる指導が望ましいと考える。高齢者施設の職員からは、施設利用者のプログラムを組む

委員	<p>際に、レクリエーションに関することに一番頭を悩ますといった声も聞かれる。アスリート養成も大切なことであるが、一生涯を通じたスポーツ活動の推進とそれを支える指導者養成も大切という認識も広げたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 教員の免許更新制度が廃止になるが、教員にもレクリエーション資格を取りたいと思っている人は少なくない。今後、学校の先生方にもたくさん資格取得者が出るようPR、養成プログラムの工夫、充実を図っていきたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍において小学校では、運動・スポーツを「する」、「みる」機会が大幅に減少している。当然ながら、体力等でスポーツ少年団等の活動をしている子とそうでない子との差が開いている。 ○ 水泳、陸上等の各学校が参集しての各種教室も規模縮小や校内開催となり、「みる」、「ささえる」機会も減少している。また、子供たちにより、終日運営がなされていた運動会も半日開催となっており、「ささえる」機会が減少している。 ○ どのようにして子供たちの「する」、「みる」、「支える」活動を保障するかを考えると、県から配置された体育振興等教員や、体育専科教員による専門性を生かした技術指導、子どもたちの興味・関心を高める指導は、大変有効となっている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学生のスポーツを取り巻く環境は大きな変革の時にあり、過渡期である。スポーツ庁は、令和7年度までに土日の部活動地域移行を完結し、それ以降、平日の活動についても同様に進めていくとしている。スポーツ庁の取組は加速しており、急速に学校から部活動が引き離されようとしている。スポーツクラブや総合型クラブ等、地域に十分な受け皿のある都会では実現可能な取組かもしれないが、総合型が32クラブ、外部指導者登録が400名程度の本県では、実現が難しく、土日も教員による指導が継続されるのではないかと想定している。 ○ これまでの部活動には、横道に逸れそうな生徒の救済や、部活動をとおした生徒同士、生徒と顧問の良好な人間関係等、教育的価値の高いものとして、学校教育を支えてきた。 ○ スポーツ庁が進める地域移行の取組は、実現可能な地域は進めていけばよいと思うが、そうでない地域においては、勤務時間内に部活動指導がきるようなシステムの構築などを同時に進めていく必要があると考える。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 県内総合型クラブの現状について情報をお願いしたい。

委員	<p>○ 総合型クラブについては、今年度から国による登録・認証制度が始まった。現在、県内32クラブのうち、22クラブが登録手続きを終えている。今年度は、この22クラブで正式に総合型クラブとしての活動がなされていくことになると思うが、確かに県内22クラブという数では、中学生の部活動の受け皿としては絶対数が足りない。ただ、一つでもいいので、県内中学生のスポーツ活動を支援できるよう協力していきたいというのが、総合型クラブのスタンスである。</p>
委員	<p>○ 今年度の高校総体を無事に予定どおりに開催することができた。各競技専門部からは、部員数の減少の声が多く聞かれた。細かな分析はできていないが、コロナの影響で中学校時代に十分な活動ができなかった生徒が、高校入学後に部活動に参加できていないのではないかと感じている。</p> <p>○ 高校総体は、部活動をとおした高校生のスポーツ振興、競技力の向上等を県民の皆さまに知っていただくよい機会と捉えている。今年度は、自分たちで作成した広報誌やメディアの支援による動画配信等、子供たちの取組を広くPRすることができた。SNSを活用した情報発信等は、これまでにない新たな手段であり、その有効性を感じた。今後、活用方法等をさらに研究していきたい。</p>
委員	<p>○ コロナ禍において、3割から5割、体重が増加したというデータがある。こうした人々は、運動の必要性を感じていない人も多い。また、運動をしてもいいが何をしたらよいのか分からないという人も少なくない。調べてみるとある大学の資料に、某自治体で「まちでやってみる」運動の事例集のようなパンフレットを見付けることができた。このパンフレットのように、手軽に運動ができる情報が発信されていくとよいと思う。</p> <p>○ 健康づくりとして、オリンピックをとおしてスポーツ栄養学の分野も多くの人への認知を得た。食をとおした健康増進の情報も積極的に発信していかなければならないと考えている。</p>
委員	<p>○ 近隣の教育長との話題も部活動の地域移行が多い。部活動の果たす役割、教育的価値は十分に認識しているが、これをスポーツ庁が進める地域移行とどう結びつけるか深慮している。</p> <p>○ 視点を変えて考えてみると、学校教育を学校内だけで完結する時代は終わりを迎えているのではなかとと思う。地域学校協働作業というものがあるが、これからは地域の人材</p>

委員	<p>を地域で育て、そのことにより地域が育つという考え方で学校運営も行うことが大切である。そう考えると今は、そうした取組を進めるチャンスでもある。</p> <p>○ いろいろな人が関わることで、子供たちの学びはより、深みや厚みを増すことが期待され、私の地域でも実際にそうした事例が見られるものもある。また、私の地域では、小中一貫を進めているが小学校の先生による部活動指導の取組事例もある。</p>
議長	<p>○ 委員の皆様から、それぞれの知見に基づく貴重な意見や情報をいただくことができた。</p>

(2) 協議Ⅱ

「次期スポーツ推進計画策定の方向性について」

発言者	発言内容
議長	<p>○ 後半は、「次期スポーツ推進計画策定の方向性について、協議を進める。協議の視点説明を事務局にお願いする。</p>
事務局	<p>○ 配付資料を基に協議Ⅱの視点を説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国のスポーツ基本計画の位置づけについて ・ 第3期スポーツ基本計画の概要について ・ 次期宮崎県スポーツ推進計画策定のポイント（視点案：事務局案）について
議長	<p>○ 事務局からの協議視点説明について、質問等があればお願いしたい。（特になし）</p> <p>○ それでは、前半に引き続き、委員の皆様それぞれのお立場から多様な意見や情報をいただきたい。</p>
委員	<p>○ 部活動の地域移行等の考え方は、都会型と考える。本県をはじめ地方においては、今後も学校体育が担う役割が大きいと思う。こうしたことから、次期宮崎県スポーツ推進計画においても学校体育に関する項目は、ぜひ残してほしい。</p>
委員	<p>○ 自分の子供は、剣道を学校外の道場で行っているが、現状として、部活動を社会体育として実施しているケースはどの程度あるのか教えてほしい。</p>
議長	<p>○ 質問に対する回答を事務局にお願いしたい。</p>
事務局	<p>○ 中学校の部活動には、主に学校で活動を行っているケースとは別に、主に地域で活動を行い、大会参加時に学校名で出場をしているケースのものがある。後者の例としては、スイミングクラブでの水泳、柔道や剣道等の武道系等が挙げられ、そういった形態で活動している部活動も少なくない。</p>
議長	<p>○ 事務局の回答でよろしいか。</p>

委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 部活の形態について理解できた。 ○ 地域での活動には、指導者が不足しているということである。私も地域で指導に携わりたいという思いをもち、個人事業主として取り組んでいるが、例えば、活動場所の確保（芝を傷めるので貸せない等）、金銭的な問題等、実現にはハードルが高い。こうしたことへのサポートも必要ではないかと考える。総合型クラブの指導者等は、指導者としてだけで生計が成り立っているのか教えてほしい。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ただ今の質問について、総合型クラブの運営に関する情報をお願いしたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラブ指導者のみで生計を立てるのは厳しい。日中は、他の仕事をした上で、夕方から指導に当たるというケースが一般的である。その際、クラブから指導の謝金を支払うが、これは会員からの会費で賄われている。
議長	<ul style="list-style-type: none"> ○ ただ今の回答でいかがか。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 総合型クラブ運営の現状について理解できた。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 東京オリ・パラを終え、5年後本県開催の国スポ・障スポ後にどのようにレガシーを残していくのか。スポーツをとおした共生社会の実現もしかりである。運動・スポーツに無関心の方々をどのようにして引き込んでいくのか、障がい者は実施率も低く、無関心層も多い。こうしたハードルをクリアするための計画を真剣に検討する必要がある。根底はスポーツを楽しむということであり、そのために学校体育において、運動や人とのつながりが楽しいと思わせるような授業が展開されることが求められると考える。学校での体験を経て、障がい者も特別支援学校を卒業後に、運動やスポーツをやってみたいと思うようになるのではないかと考えている。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校体育において、子供たちにどのようにして運動・スポーツの楽しさを味わわせるかは重要な視点である。既存のスポーツをそのまま学習させるのではなく、子ども達の実態に応じて、ルールの簡素化、場の工夫等を行うことが大切である。バスケットボールを教えるのではなく、バスケットボールをとおして教えるというスタンスで指導を行っていくことが必要である。このような学習形態により、特に小学校において、指導者が高い指導技術を有していなくとも、研修会等で学んだ指導方法をいかし、十分に子供たちが楽しむことができる体育の指導が行えるようになると思う。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校体育の指導者を養成している立場として、小さい頃

委員	<p>から専門性をもった体育指導者が授業を行うことは、大変有意義であると考えます。得意な子が優先される体育授業でなく、苦手な子が楽しく体を動かすことできる体育授業を展開していくことが重要である。そういったことから小学校体育専科の取組は、今後も積極的に推進してほしい。</p>
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ スポーツを好きになるか、嫌いになるかは指導者の伝え方次第と考える。指導者も心理学やメンタルトレーニング等、研修会や個人の学びを行っていると思う。ただ、経済的な理由で学ぶことが困難な指導者も存在する。こうした方々への支援も必要と考える。 ○ 地域スポーツを支える人材として、大学生の活用も検討するとよいのではないかと考える。宮崎大学にも中学生の部活動指導に携わっている学生が多数いる。そうした学生には教員を目指している人もおり、経験を積むという意味でもよい。指導を受ける子供たちも専門的な指導を受けスポーツが好きになるということであれば、ウィンウィンになると思う。 ○ その他、総合型クラブに登録していない方も指導者として多数存在するので、そうした方々も含め、みんなで地域のスポーツを支えていけるようになると理想ではないかと考える。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国スポ・障スポ開催を前に、競技力向上等の様々な取組を進めていかなければならない状況で、大学生の活用というのは、大変よい提案であると思う。現在、教育学部から教員を目指す学生が減少しているという課題もあり、部活動ひとつを取り上げても、こうした取組は学生にもウィン、学校にもウィンという構図がうまれる。こうしたことも含め、今後、宮崎型の部活動の在り方を作り上げていってはどうか。手放しで地域移行するのではなく、教員も地域とともに汗をかき、子供たちを育てていく宮崎型パターンができると、国スポ・障スポを契機としたレガシーの一つにもなる。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校生徒が行ったスポーツに関する探求活動の情報提供をしたい。探求活動では、テーマに応じて近隣の大学や事業所に出向き支援や助言を受け進めている。ある高校1年生のグループでは、本県のプロサッカーチーム「テゲバジャーロ」の観客数増のアイデアを提案した事例があった。2年生のグループでは、自宅で高齢者が取り組める運動について、実際に運動動画を作成し、高齢者に提供したという事例があった。こうしたグループには、運動経験が豊富な生徒や高い競技力を有していない生徒も含まれていた。保健体育

委員	<p>学習の体育理論では、「スポーツ文化の楽しみ方」という単元もあり、スポーツを切り口に生徒がスポーツと経済や、スポーツと地域社会等、幅広く学ぶことができ、大変意義深いと感じている。</p>
委員	<p>○ 今年度、体育振興教員として、20時間程度の小学校への派遣で器械運動を指導させていただいている。場所、道具等の条件を整えてあげることで子供たちは、いきいきと活動すると感じている。小学校の先生方は、全教科の指導を受け持つ中で、その準備は労力が大きいと思う。また、授業の準備運動、補助運動、主運動といった授業の流れを練る時間もそうそう確保できないのではないかと考える。今年度は、小学3、4年生を指導しているが、小学校5、6年生よりも圧倒的に習得が早く、小さい子供たちへの指導がいかに大切かを実感している。</p>
委員	<p>○ スポーツは安全・安心に行うことが第一と考える。そのため指導者は、基本の指導、心の指導をしっかりと行えるようにならなければならない。そして、指導者が楽しみながら指導にあたることが大切であると考えます。</p>
委員	<p>○ 親として子供がスポーツクラブにお世話になっている立場での意見を述べたい。大学生生活用や、地域での指導者不足、指導者がスポーツ専任では生計が成り立たない等の話題があったが、何かよい仕組みがないかと考える。例えば、教えない人、教わりたい人を結びつけるマッチングシステムのようなものはどうか。ただ、親としてはマッチングされた方に指導の全てをお任せするのは不安もある。そういう観点では、学校体育には安心感がある。そこで、こうした方々の役割分担等を調整するコーディネーターもいらっしやると有り難い。実現は容易ではないとは思いますが、そのような仕組みもあってもよいのではと考える。</p>
委員	<p>○ 過度のスポーツ活動は、怪我につながるリスクが高い。怪我をしたとしても、回復を早める体づくりが大切であり、食事は重要な役割を果たす。コロナ禍において、免疫力が注目され、なかでも腸活といったことも広く浸透しはじめている。野菜の摂取等と併せてさらに食事の在り方について、啓発を推進していく必要がある。最近では、食事のセルフチェックができるアプリも登場しており、大学生等が活用している。運動が主の健康アプリでは、運動を行うことで食事は多少乱れていても相殺されるようなものもあるので、アプリ選定や使い方も周知していく必要がある。</p>

委員	○ それぞれの世代や、競技等で課題や方向性を考えていくのではなく、大きな視点で広い視野で考えていくことも大切と感じる。自分は合気道を行っているが、稽古後に毎回スカッとする感覚が好きで続けている。こういった気持ちを大切に宮崎のスポーツに愛をもって盛り上げていきたい。
委員	○ スポーツ経験者のうち、高齢者で就業しておらず、体の動く方といった人材は、地域に少なからずいると思う。例えば体育授業の補助員として、子供たちに安全にスポーツ機会を提供するのに適した人材であると思う。全てを地域移行、全てを学校任せではなく、学校と地域が連携して、地元の人材を上手く取り込み活用していくことが望ましい。
委員	○ 運動・スポーツへの興味・関心を高めるには、小さい頃の体験や経験が大切であると感じる。そのために自然に楽しむ、自然に取り組むという環境が必要となる。 ○ 学校の先生方の頑張りによく理解できる。今後は、保護者の役割というところも重要になってくると感じる。小さい頃の挫折が、無関心につながるケースを防ぐため、メンタルケアが必要となる。そういった新しい観点の取組も次期計画に盛り込まれるとよい。 ○ 県観光協会では、県サッカー協会に対して、審判資格の取得者に対する金銭的な補助を行っている。指導者養成も大切であるが、審判員養成も次期計画に盛り込まれるとよいのではないかと思う。
委員	○ 本日の協議では、改めて総合型クラブに対する期待の大きさを感じた。今年度、国に登録した22クラブについては、そういった期待に応えることができるクラブであると自負している。人材バンクによる指導者の派遣、マッチング、それらを調整するコーディネーター等、22のクラブで果たせる役割は、たくさんあると感じた。 ○ 先ほどクラブを立ち上げたいという話題もあったが、ぜひ相談してほしい。既存のクラブに参加、一緒に活動することでも可能である。ともに、本県のスポーツ振興、推進に取り組んでいけたらと思う。
副会長	○ 本日の協議では、様々な立場の委員から、本県スポーツの課題や、意見、情報をいただけたと思う。本県の次期スポーツ推進計画策定にいかしていただきたい。
議長	○ 時間となったので、以上で協議を終了する。